

凡例
 前回検討会の議論中のご意見
 …カードごとのコメント
 …カードの括りに関するコメント
 …コメントのまとめ
 テキスト …括られたカード群の事業タイトル (仮)

大型事業

3000人規模の催し

大型コンサートの開催

宿泊施設が足りないのでは

コンベンションも2000人が限界では

3000人となるとドームツアーを行うようなアーティストまで呼ぶのは難しいのでは

実現性に懸念

旭川市のキャパシティを踏まえた実現性の懸念
 興行主の立場を想像すると、周辺人口の規模から想定される来館者数の見込みや、市外からの来館を見込んだ際の宿泊施設数など、旭川市としてのキャパシティを踏まえると、実現性の面で課題があるのではないか。

多様な空間で実施される小規模事業

トークイベントの実施

動物園の園長や飼育員が講演

地場産業の方に講演依頼
 →ソフト面のプロデューサーが必要では

屋外での気軽な音楽鑑賞体験

買い物公園のイベントと連携できるとよい

冬季のスペースの活用や景観は検討が必要では

気軽に立ち寄りきっかけに

人通り多い場所に屋外スペースを確保できるか？

長期的な貸館事業

収入的にはメリット

実現性に懸念

1日あたりの集客人数が薄まっても成立する？

日常空間での音楽体験

利用してくれる人がいるだろうか

駅ピアノは演奏者多い
 →新ホールでやってみたら良い

低予算
 地域の小規模イベント
 宣伝も必要

宣伝などのアプローチを
 宣伝や事業コーディネートなど、施設運営者側の能力や工夫が必要になるのではないか。

1000人規模の催し

今まで通り学校の発表会で使う場として重要ではないか

地域イベントとの連携

ミュージックウィークや音楽大行進と連携できるとよい

市民が発信・紹介する場
 施設を訪れた市民(若者)や市外の人に対してまちの魅力を発信する場にできると良いのではないか。

高水準の芸術性と設備を有する演目

バレエを習う人は多い
 →旭川では需要が高いのではないかと

整備費用に懸念

共用部での展示活動

若い方が活動を見せる場を

地元企業の製品を展示
 →地元就職に発展するかもしれない

コンベンションで訪れた人が旭川を知れる展示

市民が市外の人達に旭川を紹介する場があるとよい

偶然訪れた人など、幅広い人に見てもらうためにも有効では

家族単位で文化を体験する事業

親子向けの文化芸術体験

託児機能とも繋がる

集客には運営者側の工夫が必要か

託児機能付きのコンサート実施

子どもと一緒に気軽に訪れられる

子供の頃の記憶
 →愛着に繋がる

家族向け

親子向けの事業・施設で次世代継承
 いずれも多くの市民の施設利用につながるとともに、旭川市において安定した集客を見込むことができ、収益性など運営面での懸念が少ないのではないか。

凡例
 前回検討会の議論中のご意見
 …カードごとのコメント
 …カードの括りに関するコメント
 …コメントのまとめ
 テキスト …括られたカード群の事業タイトル（仮）



19
 利用者層が限定されるのでは

20
 近くに学校などがあれば、勉強場所としての需要はあるかも

21
 早朝・深夜に人通りや利用がどこまで見込めるか、実態を踏まえて検討する必要があるのでは

22
 飲食店などが入居していれば、通勤前後の食事場所として利用されるかも

23
 他の事業が定まった後に検討する事項

☛コメントのまとめ☛

他事業を踏まえて検討する運営のあり方
 具体的な施設の「運営方法」に分類される事業であり、他の事業の考え方が定まった後に、実態などを踏まえて検討し整備していくべきではないか。

市民の日常的な活動での
 使い方・使いやすさに関する事業

17
 部活動の第2拠点としての活用

18
 練習でのホール利用

19
 個人や数人での練習活動

20
 学生の練習場所が不足しているのでは

21
 日常的な活動での使い方・使いやすさに関係

☛市民の使いやすさ重視☛

☛コメントのまとめ☛
発表を起点に練習や日常の活動へ少しずつ拡大
 順序として、まず「発表の場」の機能を優先し、そちらを確保した後に、整備可能な規模・性能に合わせて事業等を検討し拡大していくべきではないか。

☛☛☛
選択肢を増やしてどんなことができそうか

☛☛☛
多様な「発表」に対応するホール機能の確保
 様々な規模感の「発表」に対応可能な選択肢を備えることが、多くの活動を生むことにつながるのではないか。

文化ホールの中核を成す
 「発表の場」として機能する事業

14
 100人規模の発表の場

15
 500人規模の発表の場

16
 規模に選択肢が欲しい
 音楽界では100人規模の需要が高いと感じる

17
 1500~2000席の大ホールを整備することは大前提ではないか

18
 公会堂の機能継承を考えると、500~800席のホールも必要では

☛ハード整備の在り方☛

☛☛☛
利用実態や近隣他施設の規模など踏まえ検討が必要では

☛☛☛
既存施設との関係を踏まえた規模設定
 規模感については、公会堂が将来的になくなることを踏まえ、その機能を承継することや、市内他施設の規模や利用状況なども鑑みて整備していくべきではないか。

次世代の担い手を育てる
 学び・育成に関する事業

19
 舞台技術に関する知識・技術の継承

20
 プロと市民による共演事業

21
 「発表の場」や「練習の場」が見えてきてから検討すべきでは
 施設の維持に寄与するなら意義深いのでは

22
 学校では先生から教わることはできるが、プロと活動する機会は得にくいと思う
 新文化ホールならではの価値につながるのでは

☛☛☛
イベントに付随した学びや育成の事業

☛☛☛
発表・練習の場を前提とした「学び・育成」
 「学び・育成」に関する事業であり、「発表の場」や「練習の場」についての施設規模が見えてきてから、その中での実現可能性について検討できると良いのではないか。

様々な属性の人が施設を訪れることにつながる事業

16
 複数展示会の同時開催

22
 自由に学び、交流を深める場

17
 様々な属性の人が訪れることにつながる

18
 複数の活動予定が同時に入っても使用できると良い

☛☛☛
旭川市としての文化・芸術の発信

☛☛☛
自由な活動・発信が多様な交流を生む
 自由に活動・発信できる場があることで、特定の目的を持つ人だけでなく、様々な年齢・性別の人が滞在しやすくなり、「交流」にもつながるのではないか。

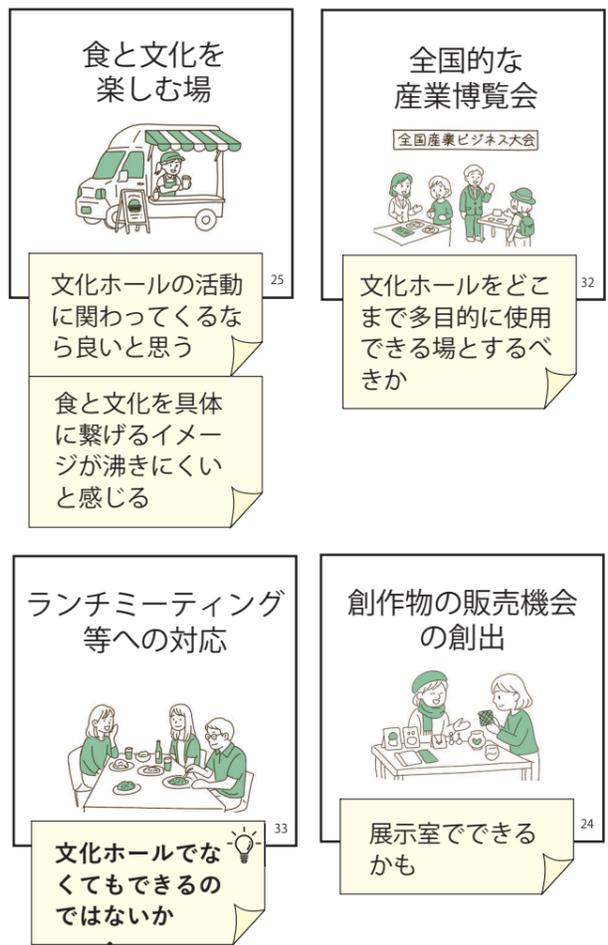
21
 文化芸術の学びを深める場

22
 デザイン都市であり、ユネスコ創造都市である

23
 文化・芸術・デザインの方向性を踏まえた施設整備ができるとう良い

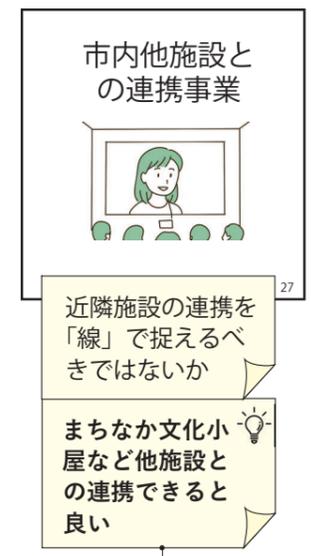
凡例
 前回検討会の議論中のご意見
 …カードごとのコメント
 …カードの括りに関するコメント
 …コメントのまとめ
 テキスト
 …括られたカード群の事業タイトル (仮)

文化活動を取り巻く関連事業



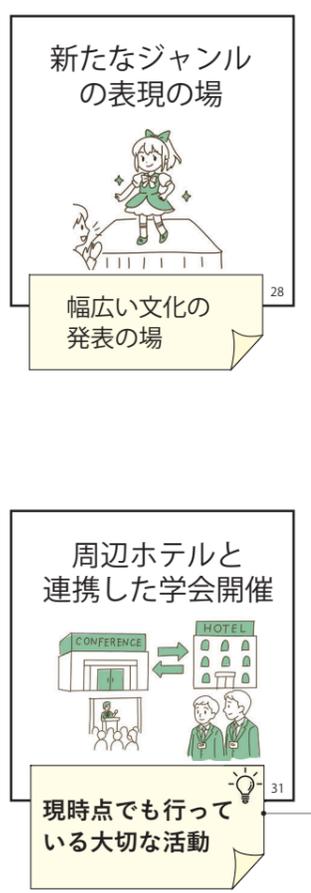
文化会館は商業の場ではないのでは？

コメントのまとめ
他施設でも実施可能な事業の位置付け
 他施設でも行うことができる事業については、新文化ホールでの実施について、理屈の整理が必要なのではないかと。



コメントのまとめ
新たなコミュニティの構築
 他の施設等とも連携した事業を企画・運営するなど、「新たなコミュニティスペースを構築」し、交流の輪を生むことが、施設利用の循環につながるのではないかと。

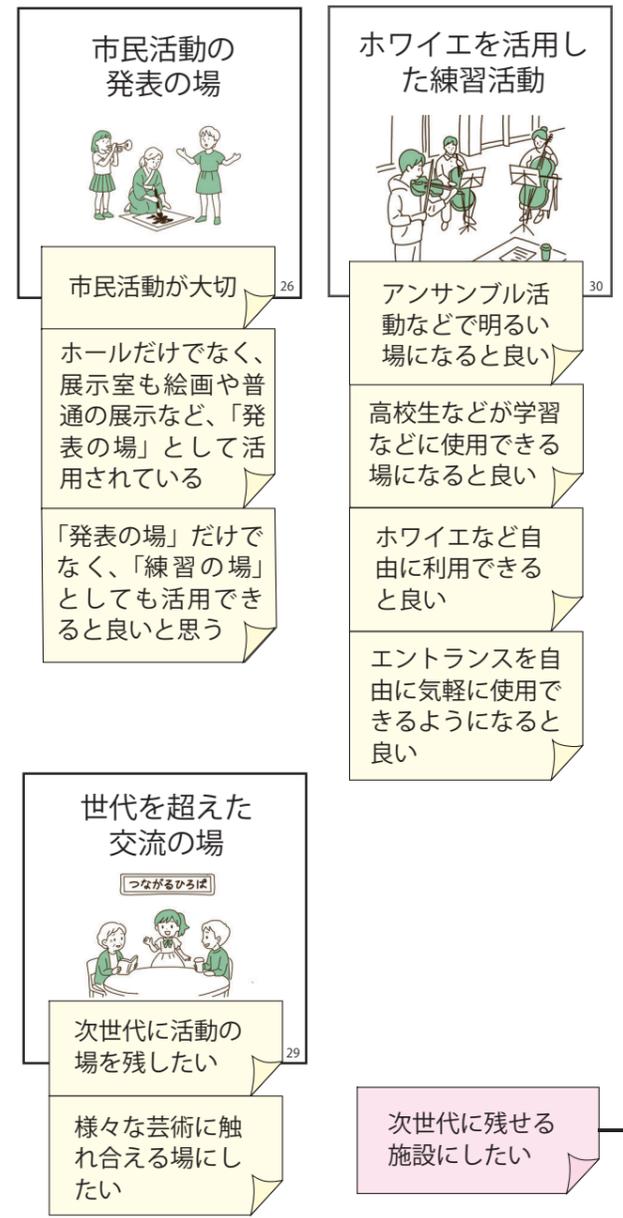
幅広い分野の文化を扱う既存事業



既存事業は継続的に行うべきなのは

コメントのまとめ
既存事業の継続と強化
 多くの市民が利用する施設となるよう、現在も実施されている事業は持続的に実施しつつ、次世代のためのホールとして整備していくことが望ましいのではないかと。

日常的に訪れたい場を作ることで、市民の交流を促す事業



次世代に活動の場を残したい

文化ホールにアクセスしやすい環境を整えるべきではないか

コメントのまとめ
施設に訪れるきっかけ
 「新文化ホールに行ったら、いつも何かが行われている」と認識される場を設けることで、市民が施設を訪れるきっかけを作らなければならないかと。

次世代に残せる施設にしたい

事業実現に向けてソフト面を整えるべきではないか

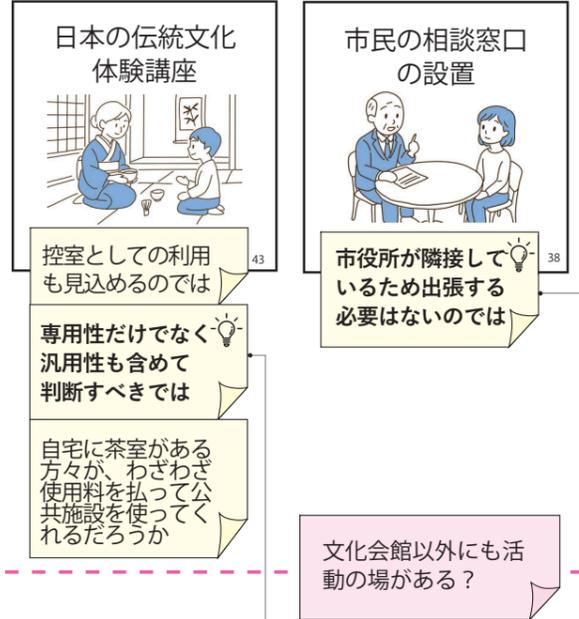
コメントのまとめ
ソフト面の工夫
 事業をコーディネートするなど、ハード整備だけでなく、ソフト面に関して施設運営者の能力や工夫が求められるのではないかと。

とりまとめる人材が大切なのは

民間活力の活用 → 一気に費用をかけず、質の高い事業を実施できるかが運営上のポイントなのは

凡例
 前回検討会の議論中のご意見
 …カードごとのコメント
 …カードの括りに関するコメント
 …コメントのまとめ
 テキスト
 …括られたカード群の事業タイトル (仮)

市民の学びと相談を支える事業

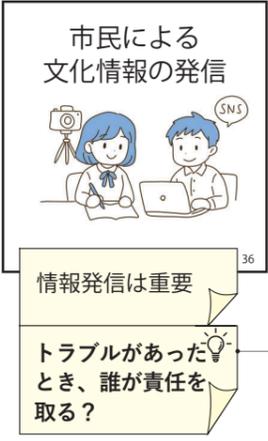


コメントのまとめ

特定諸室の多用途検討
 和室などの特定諸室の整備に関しては、専門性の高い事業からの視点だけで必要性を評価するのではなく、控室としての活用など、様々な事業での活用可能性などを踏まえ、総合的に検討が必要ではないか。

コメントのまとめ

市役所との役割分担
 隣接する市役所で担える機能については、新文化ホールが重複して担う必要はないのではないか。



コメントのまとめ

情報発信の責任主体
 情報発信は重要な意義を持つ分、責任の所在を明示できる主体として、施設運営者が担うべきではないか。

鑑賞への理解と参加を広げる事業



コメントのまとめ

専用設備と需要の見極め
 専用設備が必要となる事業については、過剰な設備とならないよう、実施頻度など需要を踏まえた事業を実施できると良いのではないか。

コメントのまとめ

参加しやすい仕組みの整備
 柔軟な申込受付や支払方法、チケットの販売方法など、利用しやすい仕組みを構築することで、より多くの方に施設を訪れてもらえるようになり、それが「発信」につながるのではないか。



コメントのまとめ

アウトリーチ事業の運営
 アウトリーチ事業を担うためには、事業主体となる施設運営者にノウハウが求められるのではないか。

外部連携を通じた施設運営事業



コメントのまとめ

柔軟な中小規模空間の整備
 「インクルーシブ」に限らず、小規模な市民団体等の様々な活動で使い勝手の良い規模感・仕様の諸室などが整備され、利用率が高まれば、それが一番の「発信」となるのではないか。

「文化芸術の拠点」機能に関する事業



コメントのまとめ

文化情報が集まり、回遊が生まれる起点
 文化交流活動の拠点」となるためには、市内の文化芸術に関する情報が集約される場としての機能を持つことが重要となってくるのではないか。